

絲綢之路

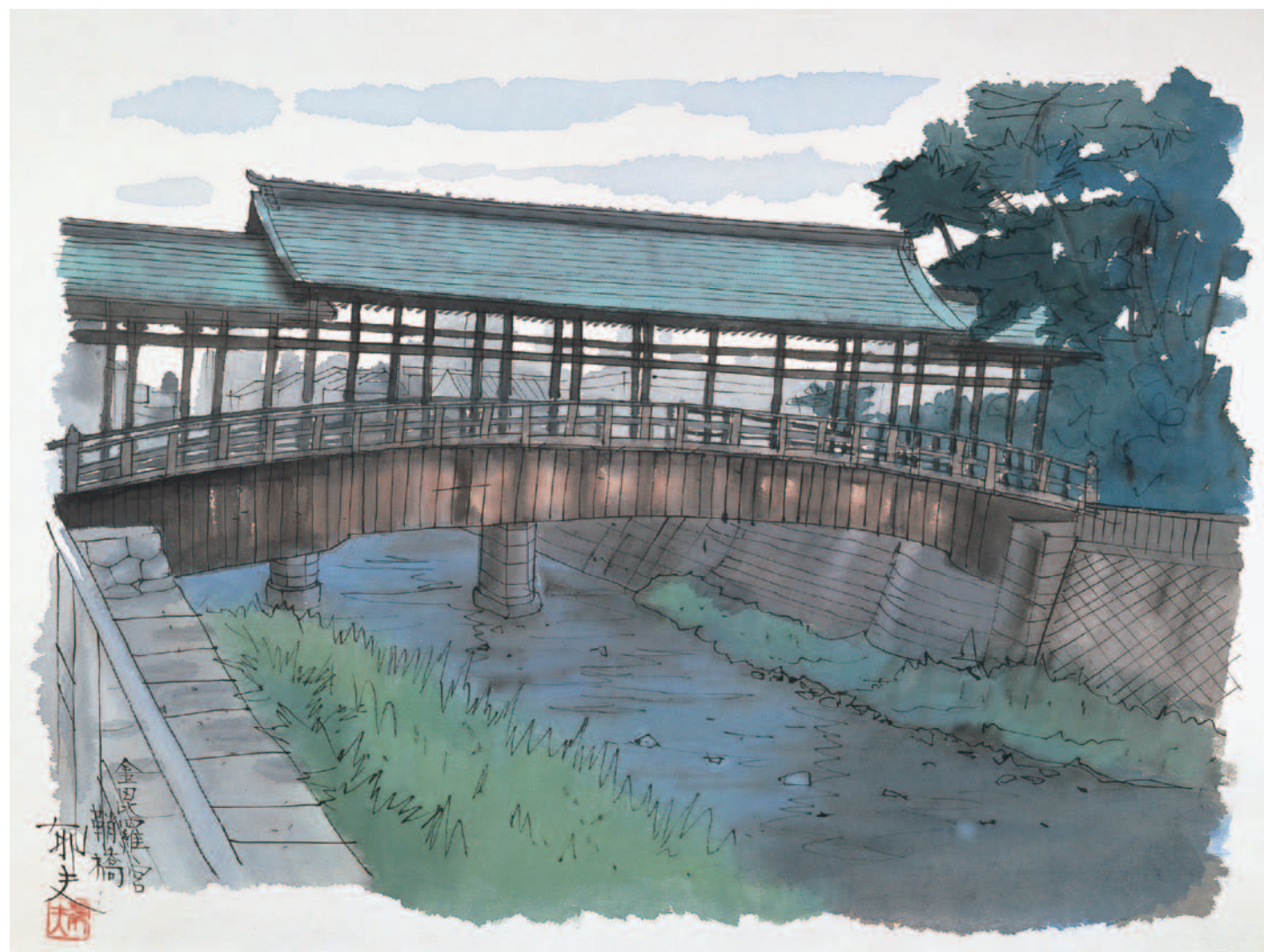
シルクロード

S I L K R O A D

2015-夏

No.78

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



金毘羅宮 鞆橋 1995年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

ジェミラ (アルジェリア民主人民共和国)



ユネスコ世界遺産(文化遺産)シリーズ ©UNESCO

ジェミラは一世紀に古代ローマ人の手によって建設され、三世紀前半に全盛期を迎えた都市。アルジェリア北東部の山奥に位置しており、六世紀末に放棄されました。ここには二一六年にカラカス帝を讃えてつくられた凱旋門をはじめ、神殿、劇場、共同浴場などのローマ帝国後期の壮大な遺跡が良好な状態で残っています。かつてこの都市は「イクル」と呼ばれていましたが、現在の地名は、後にこの地に入ったアラブ人がアラビア語で「ジャミラ」(美しい町)と名付けたのに由来しています。

(一九八二年に文化遺産として登録)

公益社団法人

日本ユネスコ協会連盟

巻頭言

国立科学博物館の役割

……上野の山文化ゾーンの中で……



独立行政法人
国立科学博物館館長
林 良博
(はやし りょうひろ)

国立科学博物館(以下、科博)は、一八七七年に教育博物館が設置されたときを創立年としていますので、本年は一三八年目に当たります。当時の建物は関東大震災で焼失しましたが、一九三〇年に上野公園内に日本館が建設され、その建物は現在重要文化財に指定されています。その後、隣接して巨大な地球館が完成。この二館が主要な展示施設として活躍しています。

上野地区以外の施設としては、筑波地区には筑波実験植物園に隣接して四年前に最新の研究棟と自然史標本棟が完成し、港区白金台にある自然教育園(天然記念物指定)とともに、研究や展示活動を行っています。

科博は全国に存在する博物館の中でも特異な存在です。約六〇名の研究員を擁していますので、研究機関としての側面からみると、国立歴史民俗博物館(歴博・千葉県佐倉市)や国立民族学博物館(民博・大阪万博跡地)に似ています。しかし、大学共同利用機関法人・人間文化研究機構が運営する「歴博」や民博は博物館をもつ研究機関であるのに対し、独立行政法人である「科博」は研究機関をもつ博物館です。すなわち科博は、国立の総合的な科学博

物館として展示・学習支援活動を行うこと、また、自然や科学技術に関する貴重な標本資料を収集・保管し、公開するとともに、その調査研究を通して、我が国の学術研究の進展に寄与するという、ふたつの重要な役割を併せもつ博物館なのです。

本年四月に公開された博物館総合調査の基本データ集は、その名のとおり、博物館の現状に関する様々な質問に対して二、二五八館が回答した結果を、科研費(基盤B)によって纏めあげたデータ集です。注目したいのは、「財政面で厳しい状況にある」と回答した館が、前々回(二〇〇四年)71・2%、前回(二〇〇八年)73・3%であったのに対し、今回(二〇一三年)は80・0%に上昇していることです。「施設設備が老朽化している」との回答も、54・8%(二〇〇四年)、61・5%(二〇〇八年)、67・1%(二〇一三年)と増え続けていることに加え、「職員の数が不足している」も64・6%(二〇〇八年)、65・1%(二〇〇八年)、71・2%(二〇一三年)と、年を追うごとに増加しています。

こうした状況を改善するには、公的資金のさらなる充実と、多くの団体・個人からの寄付の増加が望まれますが、欧米

諸国にくらべて我が国は寄付文化が希薄であるという指摘もあります。そこで文部科学省は、本年五月十四日の東京を皮切りに、全国三か所で「寄附フォーラム」(戦略的・組織的寄附募集に向けて)を開催することにしました。しかし、日本博物館協会が刊行する博物館研究(通巻563号、2015)に巻頭エッセイを寄せた栃木県立博物館長の須藤揮一郎氏によれば、「平成二十六年栃木県県政世論調査の結果を見ると、社会教育の充実は十六位(16・8%)と、十二位の道路整備(19・3%)よりも下位にとどまっている」という現実を変えるのは決して容易なことではありません。

とはいえ、このまま何もしないとギリギリになることは明らかです。そこで科博は四月から「自然史標本の保存・修復・活用に関する研究部門」を寄附研究部門として立ち上げました。文化財にかかわる博物館とは異なり、科博にはそうした研究部門が存在しなかったからです。とくに自然史標本については、最新の保存・修復技術の導入・開発が求められるだけでなく、活用に関する科学の推進が喫緊の課題でした。今日のグローバルな社会の中で、国内外の標本の適切な受入・貸出の面ではもちろん、遺伝資源としての

活用の面においても自然史標本の保存・修復そして活用に関する科学の推進が喫緊の課題となりました。

科博のホームページをご覧頂くと、右肩に「寄附のお願い」とあります。その中の「寄附研究部門」をクリックして頂くと、「自然史標本の保存・修復・活用に関する研究部門」という名称の寄附研究部門を立ち上げるための「寄附研究部門への寄附のお願い」が載っています。昨年七月に本寄附研究部門の立ち上げを決定した後に、こうした広報活動を強化した結果、多くの団体や個人の方々のご厚意により、本年四月から寄附研究部門を三年間の予定で設置できました。

しかし、この「自然史標本の保存・修復・活用に関する寄附研究部門」を継続させるためには、さらなるご寄付を頂く必要があります。なにとぞ皆様の御理解と御協力を賜りたく、お願い申し上げます。

筆者略歴

一九四六年広島県生まれ。東大農学部卒。ラブラタ大学客員教授等を経て、九〇年より東大農学部教授。農学部長、副学長を歴任。二〇一〇年より(公財)山階鳥類研究所長。一三年より現職。

動きはじめた文化財防災ネットワーク事業

文化遺産を災害から守るために

自然災害から、いかにして貴重な文化財を守るか……。東日本大震災を機に発足した「文化遺産防災ネットワーク推進会議」の歩みを見る。

文化財防災ネットワーク推進本部の発足

昨年七月、独立行政法人国立文化財機構では、東日本大震災等における文化財レスキュー事業等の経験を踏まえ、今後起こり得る大規模非常災害に対応した文化財等の救出・救援体制を確保するため、佐々木丞平理事長（京都国立博物館長）を本部長とする「文化財防災ネットワーク推進本部」を発足させました。実施体制としては、機構本部事務局内に「文化財防災ネットワーク推進室」を設け、機構各施設の学芸部長等を併任とし、文化庁の補助金によって採用するアソシエート・フェロー等が実務に当たる体制としました。今後、文化庁と緊密に連携を図りつつ、非常災害時における文化財等の防災に関するネットワークを構築するとともに、そのために必要な人材の養成、情報の収集・分析・発信を行うこととしています。主な事業内容は、次のとおりです。

- (1) 機構が果たすべき文化財の防災・救援業務のあり方に関する研究
- (2) 文化財防災・救出に関する情報の収集
- (3) 文化財防災・救出に関する指導、助言、研修
- (4) 保存科学等に基づく被災文化財の保護環境、安定化処置及び修理等に関する研究
- (5) 有事における文化財防災・救出ネットワークの構築
- (6) 文化財防災・救出に関する国際連携

平成二十七年年度の主な取り組み

文化財防災ネットワーク推進事業として、昨年十月、平成二十四年度末に解散した旧「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会」の構成団体を中心とする「文化遺産防災ネットワーク推進会議」を設置し、(公財)文化財保護芸術研究助成財団にも御参画いただきました。また、三月には文化財等の救援・防災等に積極的に取り組んでいる有識者からなる「文化遺産防災ネットワーク推進会議」を設置し、今後のネットワーク構築等に向けた様々な知見を得られるようにしました。

次に、二月に神戸の歴史資料ネットワークとともに、全国各地に二十以上設置されている史料ネットワークを集めて、「全国史料ネットワーク研究交流集会」を神戸で開催しました。今後はこれら史料ネットワークと文化財行政との役割分担についての検討が必要ですが、全国の横断的な連携体制の第一歩が踏み出せたのではないかと考えています。

南海トラフ地震による被害が想定される京都・奈良の文化財集中地域においては、京都府と協議し、「旧私のしごと館」（京都府精華町、木津川市）の防災・レスキュー拠点としての活用の検討をスタートしました。当面、収蔵庫の整備を行い、将来構想の検討を行うこととしています。人材育成に関しては、神戸大学の協力を得て、新規に採用したアソシエート・フェローの研究を十二月に行うとともに、三月には奈良文化財研究所で全国の学芸員等を対象に、地震、

を発展的に解消し、当事業において継続的に支援を行うこととしています。

第三回国連防災世界会議で話しあわれたこと

三月十四日から十八日にかけて、仙台国際センター等を会場に第三回国連防災世界会議（WCDRR）が開催され、文化庁及び国立文化財機構は、事業の一環として文化遺産に関する専門家会合を開催しました。この会合では、東日本大震災における文化遺産防災活動など、多岐にわたる文化遺産防災各分野の問題点は議論が尽くせないため、事前に東京で実質的な専門家による発表と討論を行い、そこでの結論文書を仙台で報告する形としました。

東京戦略会議では、ユネスコ、イクロム、文化庁、国立文化財機構や国際NGO（非政府組織）である

津波及び豪雨等に伴う被災文化財の応急措置技術について、実習を含めた具体的な研修会を開催しました。これらの事業は、引き続き今年度も継続して行うこととしています。

なお、福島県内の文化財レスキューに関しては、平成二六年度も旧警戒区域内の被災資料の搬出作業等の協力を行いました。が、年度末をもって機構内に設置していた「福島県内被災文化財等救援事務局」



独立行政法人
国立文化財機構
事務局長
栗原 祐司
（くりはら ゆうじ）



第3回国連防災世界会議・文化遺産防災分科会：左側2番目から元ユネスコ事務局長松浦晃一郎氏、イクロム所長ステファノ・デ・カーロ氏、文化庁長官青柳正規氏。

が、七分科会に分かれて三月十一日から三日間にわたって世界各地からの発表と討論を行い、最終日十三日にその討論成果に基づいて結論となる勧告文書を採用しました。関連して、東京シンポジウムでは二〇一一年東日本大震災時の文化遺産各分野の救援状況の報告が行われました。

十五日に仙台で第三回国連防災世界会議の公式な政府間会合の一つとして文化遺産防災分科会が開催され、松浦晃一郎・元ユネスコ事務局長司会のもとステファノ・デ・カーロ・イクロム所長や青柳正規文化庁長官、ユネスコ文化局防災担当主任のジョバンニ・ボツカルディ氏ら八人が登壇し、結論文書の内容に沿った発表討論が行われました。また、翌十六日の仙台シンポジウムでは、同会合の報告等を行い、一五〇名を超える各分野の専門家等が参加して文化遺産防災分野での理解を深めることができました。

最終的に、国連防災世界会議では「仙台防災枠組2015-2030」及び「仙台宣言」が採択され、防災の新しい国際的指針の中に強靱化に向けた文化遺産を含む防災投資の重要性、多様なステークホルダーの関与、「より良い復興（Build Back Better）」などが取り入れられ、文化遺産保護の重要性が随所に盛り込まれるなどの成果を収めることができました。

平成二十七年年度においては、これらの成果を踏まえたより一層の活動の充実を図るとともに、ネパール地震に見られるような諸外国の被災文化財の救援も視野に入れた国際的な連携体制の構築に向けた取り組みも重要な課題であると考えています。

筆者略歴

一九六六年、東京に生まれる。一九八九年文部省入省後、文化庁美術学芸課長、京都国立博物館副館長等を経て現職。現在、二〇一九年のICOM京都大会の開催に向けて奮闘中。



第1回文化遺産防災ネットワーク推進会議（2014年10月21日）：国連防災世界会議に先立ち、本年3月10日にも第2回会合を行った。



全国史料ネットワーク研究交流集会：全国22の史料ネットワーク関係者が一堂に会し、約130人の参加を得て開催した（2月14～15日）。

註3 イクロム(International Centre for the Study of the Preservation and Restoration of Cultural Property 文化財保存修復研究国際センター)
註4 ICOM(International Council of Museums 国際博物館会議)
註5 ICOSM(International Council on Monuments and Sites 国際記念物遺跡会議)

註1 World Conference on Disaster Risk Reduction
註2 ユネスコ(United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization 国際連合教育科学文化機関)

文化・芸術の守護者をめざして

「本物に会えるまち・台東区」の取り組み

東京の「文化資源区」である台東区。ここには日本を代表する数々の文化施設が集中している。中でも「上野の山」は官民一体となつて大きく変わろうとしている。

台東区の文化特性と区の文化施策がめざすもの

「二十一世紀のまちづくりの基本を文化の力に置き、本区の歴史、伝統、生活に根ざした文化の特性を活かしながら、新たな文化の創造と産業や観光の振興を推進し、快適で豊かな生活環境の創出を実現する」――これが台東区の文化政策の基本的な考え方である。

上野の山の芸術や浅草の大衆芸能、四季折々の伝統行事、日々の暮らしに根ざした下町の生活文化――台東区は、江戸時代以来の歴史と伝統のもとに、下町庶民文化と新しい文化が出会い、刺激し合いながら個性豊かな文化を育んできた。

本区は区政運営の最高指針である基本構想に、「にぎわいと活力のまち」、「いきいきとした個性あるまち」、「暮らしやすいまち」の三つの将来像を掲げている。当然のことながら基礎的自治体である区は、産業、防災、福祉、教育などの施策を着実に推進していかなければならないが、これら多岐にわたる分野の全ての施策が、文化によるつながりを持ちながら将来像を実現していく旨、本区の基本構想には明記されている。

台東区の文化施策の取り組み

ここで、本区の文化特性を活かした、特徴的な事業を紹介したい。

・上野の山文化ゾーンフェスティバル

上野の山に立地する文化団体等が叡智と力を結集し、上野の山の発展と将来像について検討することを目的として設立された「上野の山文化ゾーン連絡協議会」メンバーによる協働事業である。毎年秋に上野の山の一斉イベントとして、展覧会や講演会シリーズを展開しており、今年で二十三周年を迎える。

・東京藝術大学との連携事業

本区は東京藝術大学と、様々な分野において連携事業を実施しているが、三十年以上の長い歴史を持つものとして、台東区長賞とベートーヴェンの「歓喜の歌」を高らかに歌いあげる台東第九公演が挙げられる。台東区長賞は、東京藝術大学学生の卒業・修了制作品に対し、賞を授与し表彰するもので、区庁舎などで作品を展示し、若き芸術家たちの支援・育成を図っている。また、東京藝術大学、台東区民合唱団及び区の三者協働事業として毎年十二月に行われる台東第九公演は、



平成26年度 芸術文化支援制度対象企画
「砂の上の企画 特別公演『おこめ』」
東京キネマ倶楽部での料理つき・ディナーショー形式の演劇公演

台東区の冬の風物詩として定着している。

・台東区芸術文化支援制度

文化のまち、台東区にふさわしい先駆的な芸術文化企画を支援している。より魅力的な企画を実現できるよう、資金面だけでなく、区にゆかりのある芸術家や専門家からなる台東区アートアドバイザーと区とが、助言、調整などのサポートを行っている。平成二十年度の制度開始以来の応募総件数は三二一件、採択件数は三二件、助成金総額は約千八百万円である。

・ステージ・コミッション

喜劇発祥の地、大衆芸能が集積するまちとしてのイメージを活用しながら区の魅力を発信するTIDAS（Tokyoタウンアートサポート）事業の一環として、演劇・芸能・舞踊などの舞台芸術活動を行う団体に対し、稽古場や発表の場の確保等の支援を行っている。本年四月には、旧小学校の校舎の一部を演劇・芸能等の公演に向けた稽古場に改修した「たなか舞台芸術スタジオ」を開設した。



平成26年度 芸術文化支援制度対象企画
「第2回!!!街の音プロジェクトin かっぱ橋〜道具 de アンサンブル〜」
合羽橋道具街にちなんだ調理道具を用いたワークショップとコンサート

・区ゆかりの芸術、文化に触れられる文化施設

区内には、彫塑家朝倉文夫のアトリエ兼住居であった朝倉彫塑館（国指定名勝、国登録有形文化財）をはじめ、樋口一葉が居を構え、代表作「たけくらべ」の舞台ともなった龍泉寺町（現・竜泉）の一葉記念館、洋画家・書家であった中村不折が蒐集した中国・日本の書道史上重要なコレクションを有する書道博物館（東京都指定史跡）、大正・昭和の下町文化に触れることのできる下町風俗資料館、わが国初の本格的な洋式音楽ホールである旧東京



朝倉彫塑館



旧東京音楽学校奏楽堂

音楽学校奏楽堂（国指定重要文化財）などがある。区では、こうした区ゆかりの人物、芸術、文化に、多くの方々に親しんでいただけるよう施設を公開している。



台東区文化振興課長
内田 円
(うちだ まどか)

二〇一〇年を契機として

東京オリンピック・パラリンピックを五年後に控えた今、区は文化振興の取り組みを一層充実、加速させ、国内外に発信していく絶好の機会を迎えているといえる。

充実、加速させたい取り組みの一つ目は、文化施設のおもてなし向上である。様々な立場の方が快適に文化に触れることができるよう、身障者の方や、乳幼児、外国人の方などの目線にたつて今一度サービス内容を点検する必要がある。

二つ目は、既存事業を発展させた取り組みである。台東区には豊富で多彩な誇るべき文化資源があり、その特性を活かした文化事業の蓄積がある。これまで事業に携わっていただいたユニークな人材の力を結集できれば、区の文化のさらなる発展に繋がるおもしろい、何かができそうである。

三つ目は、上野「文化の杜」新構想推進会議と連動した取り組みである。二〇二〇年に向けて上野公園が「文化の杜」として国際的なシンボルとなることをめざす構想が動き出そうとしている。ハード・ソフトにわたる様々な方策の実現には課題もあるが、本区も地元自治体として、芸術文化拠点の魅力向上に向け、構想の具体化に取り組んでいきたい。

そして何よりもまず、二〇二〇年に向けてどのように盛り上げていくか、これらの取り組みの具体化を急がなくてはならない。そのため、これまでお世話になってきた方々のお力もお借りしながら、区の文化施策の実行プランをつくり、着実な実施に繋げていきたい。果たして五年後、どのように東京オリンピック・パラリンピックを迎えるのだろうか。鍵を握っているのはまさに今、携わっている私たちなのだ、身が引き締まる思いである。

筆者略歴

神奈川県出身。平成二年より台東区役所勤務。
平成二十八年より現職。

世界の中のアジアの作曲家たち

民族の心を表した名曲の数々。
才気に満ちたアジア各国の作曲家が
世界にむけて発信した音楽の魂にふれる……。

集まった多彩な顔ぶれ

二〇一四年十一月に横浜と東京で「アジア作曲家連盟 (Asian Composers League - ACL)」の第三十二回総会＆音楽祭である「アジア音楽祭2014」が開催された。アジア作曲家連盟は、一九七三年に日本・韓国・台湾・香港の作曲家たちの呼びかけにより始まった組織で、現在、日本・韓国・台湾・香港・フィリピン・ヴェトナム・シンガポール・マレーシア・タイ・インドネシア・イスラエル・トルコ・ニュージーランド・オーストラリアの十四の国と地域の作曲家の組織が加盟している。日本は、私が会長を務めている一般社団法人日本作曲家協議会 (JFC) が代表となっている。毎年、加盟各支部の持ち回りで総会＆音楽祭を開催しているが、日本では、一九七四年 (京都)、一九九〇年 (東京・仙台)、二〇〇〇年 (横浜)、二〇〇三年 (東京)、二〇一〇年 (東京)、二〇一四年 (横浜・東京) と六回の開催を行っている。開催支部によって規模は異なるが、概ね一週間の期間にオーケストラ、室内楽、電子音楽などのコンサートのほか、各支部が三十歳以下の作曲家を選出する作曲コンクール本選会 (青年作曲賞)、シンポジウム、総会などが行われている。

世界各国の音楽関係者に作品の募集を行い、三百曲に及ぶ作品が集まった。その中からJFCの委員会により選出された約六十曲が演奏され、多くの作曲家や演奏家が集まる活気溢れる音楽祭となった。オーケストラ・コンサート二回、室内楽コンサート五回、ピアノ連弾、電子音楽、ジャズコンサート、民族音楽コンサート、室内オーケストラ、青年作曲賞コンサートなど計十三回の音楽会を開催した。多くの作曲家が来日し、演奏者の数でも延数百名に及ぶ規模の大きな大会となった。情報化の進んだ現代ではアジアの音楽



集まったアジアの作曲家たち。前列左から3人目が会長に再選された筆者。その右隣りは前会長のバン・ファンロン氏 (台湾)

個性あふれる秀作の数々

家たちとの交流をとることは決して難しいことではないが、やはり人と人が出会うことによって得られる交流と、そこから生まれる創造の世界はいつの時代になっても欠くことのできない特別の意義がある。この音楽祭では、作品が発表される作曲家以外にも多くの音楽家や関係者が集い、連日それぞれの音楽について、各国の音楽事情の情報交換が行われるなど、アジアの音楽界の可能性を見つめる重要な場となっていた。

グローバル化の進んだ現在、音楽分野の関心もアジアを始めとする非西洋諸国に目を向けられている。今回は伝統音楽として、ヴェトナムの民族音楽合奏団、日本の笙、仏教声明などが紹介され注目を集めた。



作曲家
松下 功
(まつした いさお)

品がある。今回の作品《風に乗る》は、宮澤賢治の詩を基にした作品であり、オーケストラの演奏者が賢治の詩を語る場面もあり音響的にも大変優れた作品であった。

続く日本の大御所・早川正昭の作品《月児高》は、中国の琵琶の協奏曲である。早川は長年指揮者として日本をはじめアジアでも活躍していた。今回の作品は中国のある演奏者からの依頼で書いたもので、親しみやすく美しい中国民謡とダイナミックなオーケストラの組み合わせが印象的であった。

三曲目は香港を代表する作曲家・曾業發《序曲》。彼は国際現代音楽協会の会長を務めた作曲家であるが、香港放送局のディレクターを務めた経験を持つなど多才な音楽家である。この作品はその名が示すように「ミラジオ局からの依頼で書かれたもので、ファンファーレのような冒頭から始まり、大音響のクライマックスまで一気呵成に進むエネルギー溢れる作品であった。

四曲目はヴェトナム音楽家協会会長を務める作曲家・ド・ホン・クアンの協奏曲《対話》。ヴェトナム農村の民謡を巧みに取り、ダンバウの魅力をも十分に引き出した作品であった。



祖国の誇りをメロディーにのせて。左端がヴェトナムの民俗楽器ダンバウ

豊かな楽の音を世界に発信

アジアの作曲家たちは、それぞれの地で育まれた文化に基づいたユニークな音楽を創造している。今回の音楽祭で取り上げられた作品の中にも、アジアという地域でしか生まれ得ない独自性に富んだ作品をいくつも聴くことができた。そして、その文化を世界に独自の言語で発信し、新しい世界の文化へと創造の領域を広げようとしている。私は、アジアの文化は二十一世紀の世界を牽引する要素を多く含んでおり、まさに「可能性の宝庫・アジア」であると考えている。

この「アジア音楽祭」の最終日に、総会が行われアジア作曲家連盟の執行委員の選挙が行われた。私が会長に、副会長にはシンガポールのホ・チーコンが、そして執行委員には、キーン・ミ・リー (韓国)、マ・ティン・イ (台湾)、イヴ・ダンカン (オーストラリア) が選出された。私は二〇〇〇年から二期五年間会長を務めたことがあるが、この度会員の推挙により再度会長を務めることとなった。二〇二〇年に東京オリンピック・パ



東京フィルハーモニー交響楽団との競演を終え、華やかなグランド・フィナーレ (2014年11月7日。東京・紀尾井ホールにて)

ラリンピックを迎える日本にとって、アジアを視野に入れた文化の意義を世界に伝えていく責任がある。その文化の意義とアジアの魅力の世界に発信するよう尽力していきたいと思う。

筆者略歴

作曲家、東京藝術大学副学長。一般社団法人日本作曲家協議会会長。アジア作曲家連盟会長。二〇二〇東京オリンピック・パラリンピック組織委員会文化・教育委員会委員。

※ 当財団からも一部助成。
※ 弦が1本だけで、ハーモニクスを使い、弦の張りの強さを変えながら演奏するヴェトナム特有の楽器。

和紙

①

多様な用途に適した楮紙

ユネスコによって無形文化遺産として登録された和紙。絵画はもちろんのこと、文学、工芸、生活環境等々、日本文化を支えた和紙の素晴らしさに様々な角度からふれてみる。

海外で高まった近世の和紙の評価

近世初期、イエズス会の宣教師達はペン書きできる鳥の子紙〔雁皮紙〕を母国への通信に使い、レンブラント（一六〇六―一六九）は和紙を入手して版画を作製している。どのような和紙が使用されたかについて福井県によって現在調査が行われており、鳥の子紙も用いられていることが明らかとなっている^{※1}。なお、平戸オランダ商館が一六三六年に鳥の子紙五十八束（一束は百枚）を購入し、このうち少なくとも二十八束が輸出されたことが、商館の帳簿よりすでに明らかとなっている。

一方、科学的側面より和紙について記述を残しているのが、ドイツ人ケンペル（一六五―一七一六）である。五代將軍徳川綱吉に謁見した彼は著書『廻国奇観』（一七二二）のなかで「和紙は強く、質も良く、かつ白い」と述べている。また、幕末の一八六〇年に来日したドイツ（プロイセン王国）の駐日公使オイレンプルク（一八一五―一八二）の随行者が編述した『日本遠征記』では「紙の用途がこの国より広いところはおそらくどこにもないであろう」と記している^{※3}。

和紙に用いられる繊維の特徴

この和紙の強さの源は、用いている繊維が細長いことにある。図1は横軸が製紙用繊維の平均長で縦軸が

紙よりも強度の高い（グラフの右・上に位置する）楮紙をつくることのできる。グラフには示していないが、雁皮繊維と三極繊維は針葉樹繊維と同様の繊維長を有するが、繊維幅は約半分であり、表面が平滑で強い紙を作ることができる。

長い繊維を生かす製紙法

写真3に楮繊維を抄紙したタイの手漉き紙と和紙

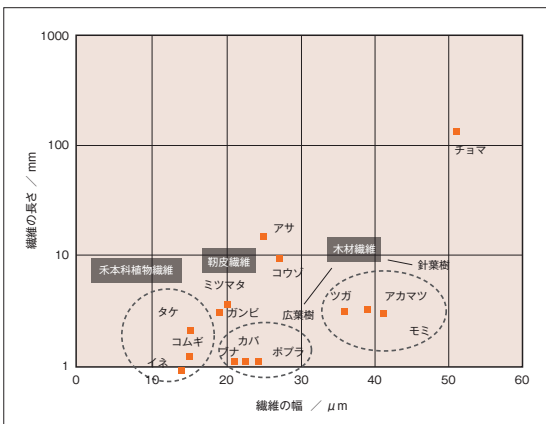


図1 製紙用繊維の長さとの平均値

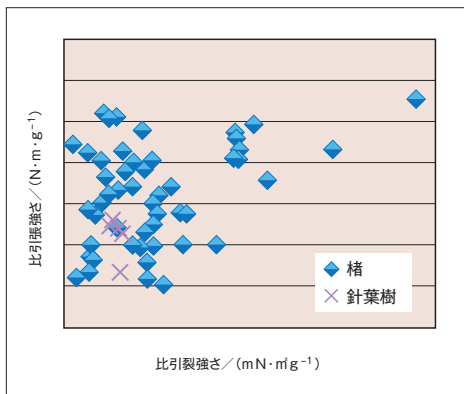


図2 楮紙(和紙)と針葉樹繊維紙(洋紙)の強さ(加藤晴治の市販品の強度データ^{※4}より作成)

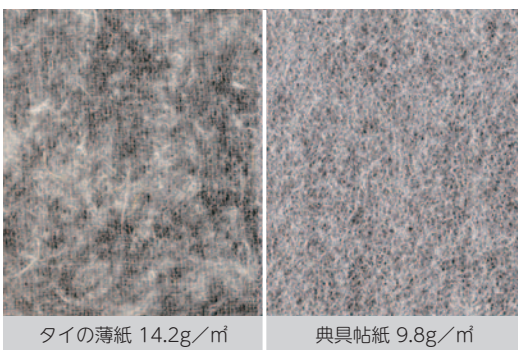


写真3 タイの楮紙と典具帖紙の地合の比較

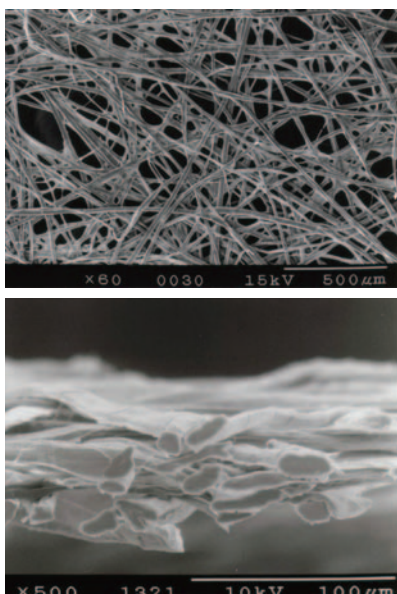


写真4 典具帖紙の走査型電子顕微鏡写真(上:表面、下:断面)

- ※1 加藤榮一：平戸オランダ商館の商業帳簿に見られる日蘭貿易の一断面―1636年のオランダ商館「仕訳帳」の分析を中心に―東京大学史料編纂所報 第3号(1968)
- ※2 青木里奈：海を渡った「toronocq(鳥の子)」を訪ねて、和紙の里、32、27-28(2011)
- ※3 久米康生：海外で高まった和紙の評価、「和紙文化史」、p.197(1990)、毎日コミュニケーションズ
- ※4 加藤晴治：和紙の一般性状、「和紙(技術編)」、p.81(1966)、東京電機大学出版局

典具帖紙は透けて反対側が見えるような薄さでも強さがある。

和紙の多様な用途

プラスチックの無い時代には、和紙は記録用途や絵画用途のほかに、その強くて軽い性質を生かして、折ったり、もんだり、貼ったりすることで、生活用品として多様な需要に応えていた。東大寺二月堂のお水取りの時に僧侶はもみ紙で仕立てた紙衣を今でも用いている。そのために、和紙は厚い紙から薄い紙、堅い紙から軟らかな紙まで多様な製品が作られていた。簡単に折れ、そしてその形状をしつかりと保持できるのもプラスチックにはない紙の特徴である。

現代でも和紙はその強くて安定した素質から文化財保存修復において、紙資料の補強にはなくてはならない素材として世界中で用いられている。通常の手漉きの典具帖紙は坪量10g/m²(1平方メートルあたりの紙の重量)程度であるが、修理の目的ではより薄いものを用いることで表面に貼っても目立たないものが望まれており、機械漉で3・5×2・0g/m²のものまで市販され、海外で好評を得ている。

また、ローマ教皇の公邸にあたるヴァチカン宮殿のシステイナ礼拝堂の壁画表面の洗浄の際に壁画の損傷を低減する目的で、典具帖紙が使用された。典具帖紙は洗浄液を通すが、壁画面を洗浄時の摩擦から守り、洗浄後には綺麗にはがすことのできるからである。

筆者略歴

東京農工大学林産学科卒、東京大学大学院林産学専攻修了(農学博士)
岐阜大学林学科助手を経て一九八四年に東京藝術大学大学院助手となり、現在は文化財保存学専攻(保存科学)教授、一九九五年に文部省在外研究員としてイギリスのピクトリア・アンド・アルバート美術館で研修。専門は保存科学、製紙科学
和紙文化研究会会長、読売あをによし賞運営・選考委員 他



東京藝術大学
大学院教授
稲葉政満
(いなば まさひろ)



写真1 楮と繊維の走査型電子顕微鏡写真



写真2 三極と繊維の走査型電子顕微鏡写真

定款第4条の定めに従い、次の事業を行いました。

平成二十六年度事業報告

■文化財保存修復助成事業

国内文化財の保存修復事業助成として、26都府県教育委員会から推薦のあった50件の中から、24件の事業に助成を行いました。

（美術工芸）（敬称略・以下同）

- ①宮城県・伊藤清人
木造聖観音菩薩坐像修復事業
- ②千葉県・真野寺
木造大黒天立像保存整備事業
- ③東京都・淨眞寺
木造阿弥陀如来（九品）坐像修復事業
- ④新潟県・本都寺
木造阿弥陀如来立像修復事業
- ⑤京都府・北野天満宮
古記録保存修理事業
- ⑥島根県・迎接寺
絹本着色両界曼荼羅図保存修理事業
- ⑦山口県・洞春寺
木造大内義弘坐像他3軀保存修理事業
- ⑧高知県・金剛福寺
木造二十八部衆立像及び風神雷神像保存修理事業
- ⑨熊本県・多良木町長
木造千手観音立像保存修理事業
- （建造物）
- ①青森県・長者山新羅神社
本殿・拝殿修理事業
- ②山形県・熊野神社
本殿保存修理事業
- ③福島県・安洞院
多宝塔修復事業
- ④茨城県・中原区
不動尊保存修理事業

- ⑤栃木県・渡辺久子
屏風岩石材石蔵保存修理事業
- ⑥埼玉県・富士見市教育委員会
旧金子家住宅茅葺屋根修復事業
- ⑦東京都・福島康正
福島家住宅主屋修理事業
- ⑧石川県・大乘寺
伽藍保存修理事業
- ⑨愛知県・高勝寺
田峰観音地狂言舞台屋根葺き替え工事事業
- ⑩三重県・伊賀市
糞虫庵修復事業
- ⑪滋賀県・檜尾神社
本殿保存修理事業
- ⑫鳥取県・神崎神社
本殿保存修理事業
- ⑬福岡県・高祖神社
本殿保存修理事業

- （有形民俗）
- ①長野県・大黒町自治会
大黒町舞台修理事業
- ②岐阜県・愛宕やま保存会
大垣祭愛宕やま見送り幕復元新調事業



新潟県・本都寺
阿弥陀如来立像（修復後）

■芸術研究等助成事業

文化財の保存修復及び芸術に関する調査研究、成果の発表等に申請のあった26件の中から、16件に助成を行いました。

- ①ミュージック・フロム・ジャパン創立40周年記念音楽祭（日本現代音楽協会理事 北爪道夫）

（2014年4月～2015年3月 九州国立博物館）

■重点助成事業

- ①尼門跡寺院文化財保存修復助成事業
東芝プラントシステム株式会社の支援により、尼門跡寺院文化財の保存修復事業に対して助成を行いました。

○紙本着色「源氏物語図屏風」（中宮寺）

- ②東日本大震災被災地復興支援事業
音楽芸術の持つ力により被災地の人々を勇気づけ復興の加速を促進し、かつ芸術振興に寄与できるよう、企業や団体等からの支援により、ルツェルン・フェスティバルアーク・ノヴァプロジェクト事業に助成を行いました。

○ルツェルン・フェスティバルアーク・ノヴァプロジェクト

- （アーク・ノヴァ実行委員会委員長 梶本眞秀）

- ③東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業
14ページの特集欄に掲載

■文化財の保護及び芸術振興に関する出版物の刊行、講演会の開催、その他普及及び広報活動に関連した事業

文化財の保護及び芸術振興に関する啓蒙活動、国際交流、広報活動として広報誌の発行、文化交流フォーラムの開催、その他普及広報活動に関連し次の事業を行いました。

- ①広報誌「絲綢之路」の発行
第75号（二〇一四夏）平成26年6月16日発行
第76号（二〇一四秋）平成26年10月15日発行
第77号（二〇一五新春）平成27年1月20日発行
発行部数：各2、000部

- 配布先：都道府県教育委員会、美術館・博物館、文化財研究機関、芸術系大学、新聞社、支援者、賛助会員、理事・評議員、その他関係者に配布
- ②文化財保存修復支援カレンダー・基金の募金活動（二〇一五年カレンダー）
募集期間：平成26年9月～平成27年1月
製作題材：出光美術館所蔵「国宝伴大納言絵巻」現状模写作品（3年目）
募金応募件数：1、936件（募金額6、830、616円）
- ③第10回日中韓文化交流フォーラムの開催
会期：平成26年10月7日（火）～10日（金）
会場：韓国（釜山広域市）
議題：日中韓映画製作の現状及び相互協力
- ④「第19回妙高夏の芸術学校」の共催
主催：妙高夏の芸術学校実行委員会
共催：（公財）文化財保護・芸術研究助成財団、新潟日報社、妙高市他
期間：平成26年7月29日（火）～8月1日（金）
参加者：日本画（20名） 油彩画（17名） 水彩画（19名） デッサン・スケッチ（20名）
水彩画初心者（5名）計81名
- ⑤第64回社会を明るくする運動「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」に協力
主催：社会を明るくする運動、中央推進委員会他
- ⑤講演会・シンポジウム・展覧会等の後援
（ア）第9回「文化財保存・修復―読売あをによし賞」を後援
主催：読売新聞社
後援：文化庁、（独）国立文化財機構他
（イ）「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」レベルⅠ、レベルⅡを後援
主催：（特非）文化財保存支援機構

- ②吉岡孝悦作曲マリンバ打楽器アンサンブル作品演奏会山形公演（社）日本作曲家協議会演奏家・作曲家 吉岡孝悦
- ③文化財の危機管理セミナー「陸前高田学校」

- 「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」レベルⅡ・Aコースとして（（特非）文化財保存支援機構理事 増田勝彦）
- ④オペラ「双子の星」東日本大震災復興応援公演（東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校教諭 高橋裕）
- ⑤矢代幸雄におけるバーナード・ベレンソンの方法論受容に関する調査研究―矢代・ベレンソン往復書簡を中心に（東京文化財研究所企画情報部副部長 山梨絵美子）
- ⑥日中韓国際芸術シンポジウム（併 三国交流書作展）―東アジアにおける書表現と書教育―（東京学芸大学教授 加藤泰弘）
- ⑦清華大学美術学院&東京藝術大学テキスタイル交流展（東京藝術大学美術学部教授 菅野健一）
- ⑧平安・鎌倉期の彫刻文化財における3D計測調査研究（東京藝術大学大学院美術研究科教授 藪内佐斗司）
- ⑨演能用装束の保存・修復・管理についての研究（共立女子大学准教授 田中淑江）
- ⑩和楽の美（東京藝術大学音楽学部教授 萩岡松韻）
- ⑪オーケストラコンサート「指揮者は作曲家」（東京藝術大学演奏藝術センター教授 松下功）
- ⑫室町時代の目貫の制作技法の解明と復元研究（文化学園大学助教 成井美穂）
- ⑬国宝伴大納言絵巻現状模写研究（東京藝術大学教授 手塚雄二）
- ⑭日本の文化財保存修復ワークショップ

- inフイレンツェ（東京藝術大学特任教授 伊東順二）
- ⑮紙本作品に付着した真鍮由来の緑色腐食生成物の除去に関する研究（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター専任講師・研究員 大山龍顕）
- ⑯外国人研究者招致（新疆亀兹研究院 副研究員）（名古屋大学文学研究科助教 中川原育子）

■国際協力事業

文化財の保護及び芸術文化に関する国際的な協力・交流、人材養成事業等申請のあった9件の中から、7件の事業に助成を行いました。

- ①敦煌研究院から研究員招致（人材育成等の援助計画に関する覚書に基づく招致）（李冰凌 2014年4月1日～2015年3月31日 東京藝術大学）
- ②敦煌研究院から研究員招致（人材育成等の援助計画に関する覚書に基づく招致）（劉洪麗 2014年10月1日～2015年9月30日 東京藝術大学）
- ③ウズベキスタンにおける文化遺産保存修復技術実技講習（駒澤大学文学部非常勤講師 古庄浩明）
- ④トルコ共和国古代遺跡出土遺物、遺構の保存、修復と若手専門家の養成（（公財）中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所長 大村幸弘）
- ⑤ヴォーティイの回廊所蔵アンドレア・デルサルト壁画作品に関する調査研究（東京文化財研究所文化遺産国際協力センター客員研究員 前川佳文）
- ⑥タイ所在の幕末期日本製螺鈿製品に関する基礎調査（東京文化財研究所室長 二神葉子）
- ⑦外国人研修員招聘（範奕登中国 呼和浩特博物館蒙古壁画保護中心非常勤職員）

- 共催：（独）国立文化財機構 東京国立博物館他
後援：（公社）日本ユネスコ協会連盟他
- （ウ）「文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム」
（世界遺産としてのシルクロード）日本による文化遺産国際協力の軌跡―を後援
主催：文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁
後援：外務省他
- （エ）「第8回 美の継承展」を後援
主催：（有）ライザ
後援：鎌倉市教育委員会
- （オ）東日本大震災復興支援チャリティー企画
第16回「文化人・芸能人の多才な美術展」―広げよう文化の輪―芸術は地球を救う！―を後援
主催：（特非）日本国際文化遺産協会「文化人・芸能人の多才な美術展実行委員会」
（カ）東京文化財ウォークを後援
主催：（二社）木谷ウォーキング研究所
- 法人正会員（二十六社） 【五十音順】
朝日生命保険相互会社
株式会社 NHKエンタープライズ
株式会社 NKB
鹿島建設 株式会社
株式会社 講談社
株式会社 集英社
セコム 株式会社

- 全日本空輸 株式会社
株式会社 高島屋
武田薬品工業 株式会社
株式会社 竹中工務店
株式会社 電通
東京ガス 株式会社
株式会社 東京ドーム
トヨタ自動車 株式会社
日本写真印刷 株式会社
野村ホールディングス 株式会社
公益財団法人 東日本鉄道文化財団
株式会社 日立製作所
有限会社 丸栄堂
三井住友海上火災保険 株式会社
株式会社 三井住友銀行
三井物産 株式会社
株式会社 三越伊勢丹
株式会社 ミロク情報サービス
森ビル 株式会社
法人維持会員（十六社） 【五十音順】
大塚ホールディングス 株式会社
大阪ガス 株式会社
株式会社 コメリ
株式会社 資生堂
洲本観光株式会社
株式会社 精養軒
宗教学法人 全昌院
大日本印刷 株式会社
大和建設 株式会社
千代田絨毯 株式会社
株式会社 東京マリー美術
株式会社 なとり
はあーとふるふぁんど委員会
浜名梱包輸送 株式会社
株式会社 平成建設
株式会社 横井春風洞

賛助会員ご入会とご寄付を頂き
ました皆様

特集

●平成26年12月26日から

平成27年5月20日まで

敬称略／順不同

☆寄付金

○文化財保存修復・芸術研究等助成事業

(株)ジャックス

日進レンタカー(株)

共同印刷(株)

文化財保存修復支援カレンダー募金

ヤフーネット募金(112名様)

○東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

バンクオブアメリカ・メリルリンチ

(一社)日本建設業連合会

社会貢献活動協議会

(公社)日展

JOBANAアトライン協議会

神奈川の文化財の未来を考える会

(公財)損保ジャパン日本興亜美術財団

日本サムスン(株)

東京都江戸東京博物館



宮城県・天雄寺観音堂 (修復後)

(注1)募金(寄付)及び支援の呼びかけは、当財団理事長の他次の関係者とも連携・協力を図りながら幅広く実施しています。

1 文化庁長官による募金の呼びかけ

2 日本サムスンとの連携による「平山郁夫・文化財赤十字プロジェクト」東日本大震災被災文

東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業の状況

■支援事業について

被災文化財の救援と復旧のために募金(寄付)にご協力いただき誠に有難うございます。皆さま方からこれまでにいただきました浄財を被災文化財の救援・復旧のために活用させていただいています。

本事業につきましては、一昨年及び昨年の広報誌(夏号N°72及び夏号N°75)で特集を組み報告をしているところですが、今回第三回目の報告をします。徐々に復興は進みつつありますが、いまだ支援の手を待っている文化財があり、息の長い取り組みが必要であります。

当財団が、これまでいただいた募金(寄付)額と、これに基づき実施した助成の状況を下表のとおり一覧表にまとめました。なお、本事業は平成二十八年度まで継続して実施して行きます。

(H27.5.8現在)

■募金(寄付)受け入れと支援事業の状況

区分 年度	募金 (寄付) の状況 上段：件数 下段：金額	支 援 事 業 の 状 況									
		文化財保存修復助成						文化財レスキュー助成			合計
			美術 工芸品	建造物	記念物 埋蔵文化財	無形 文化財	計	美術 工芸品	建造物	計	
平成 23 年度	544	申請数		1			1	1		1	2
		採択数		1			1	1		1	2
		助成数		1			1	1		1	2
	274,999	助成金		1,000			1,000	40,000		40,000	41,000
平成 24 年度	168	申請数	11	67	7	22	107	1	1	2	109
		採択数	11	47	2	22	82	1	1	2	84
		助成数	11	42	2	21	76	1	1	2	78
	51,159	助成金	7,425	62,094	1,598	15,315	86,432	20,000	6,000	26,000	112,432
平成 25 年度	109	申請数	9	41	2	18	70	1	1	2	72
		採択数	8	34	0	17	59	1	1	2	61
		助成数	7	29	0	17	53	1	1	2	55
	28,453	助成金	3,000	49,543	0	18,030	70,573	5,000	4,000	9,000	79,573
平成 26 年度	74	申請数	2	30	4	9	45				45
		採択数	2	21	2	9	34				34
		助成数	2	20	2	9	33				33
	46,840	助成金	1,200	19,800	1,100	11,536	33,636				33,636
平成 27 年度		申請数	1	20	1	2	24				24
		採択数	1	15	1	2	19				19
		助成数									
		助成金	600	28,800	300	900	30,600				30,600
合計	895	申請数	23	159	14	51	247	3	2	5	252
		採択数	22	118	5	50	195	3	2	5	200
		助成数	20	92	4	47	163	3	2	5	168
	401,451	助成金	12,225	161,237	2,998	45,781	222,241	65,000	10,000	75,000	297,241

(金額：千円)

「盛合家」復旧・復元修理事業

② 岩手県・村上和子

「村上家住宅」震災復旧事業

③ 岩手県・祥雲寺

一切経蔵震災復旧工事

④ 岩手県・鈴木禮子

「山神宮石殿・関連鳥居修復事業

⑤ 岩手県・菊池長一郎

旧東屋酒店復旧復元修理事業

⑥ 宮城県・天雄寺

観音堂復元工事及び保存修復

⑦ 宮城県・(一社)気仙沼風待ち復興検討会

小野健商店土蔵修復事業

⑧ 宮城県・気仙沼・尾形家修復保存会

気仙沼・尾形家修復保存事業

⑨ 福島県・佐藤利男

佐藤家住宅味噌蔵修復工事

⑩ 福島県・島貫裕行

瀬上嶋貫本家住宅表門修復工事

⑪ 福島県・渡辺一夫

渡辺家住宅修理事業

⑫ 福島県・金町上町内会

天神山五輪塔災害復旧事業

⑬ 福島県・大國魂神社

本殿修復事業

⑭ 福島県・長福寺

山門解体修復工事

⑮ 福島県・岩角寺

岩角山建物修復関連工事

⑯ 福島県・矢吹友市郎

矢吹家住宅 震災復旧事業

⑰ 茨城県・鈴木正徳

鈴木醸造長屋門修理工事

⑱ 埼玉県・観音院

小淵山観音院仁王門修理事業

⑲ 千葉県・岩井宗志

岩井家住宅主屋(旧武蔵屋店舗)保存修復事業

お願い

当財団の事業は皆様方からの暖かいご支援によって実施しております。ご協力をお願い申し上げます。

ご支援には次の方法等がありますので、詳細は事務局までお問合せ下さい。

⑳ 山梨県・甲州市長
旧田中銀行社屋修理事業

(無形文化財)

① 岩手県・荒神大神楽

用具整備事業

② 岩手県・川向十二支会

用具整備事業

③ 岩手県・箱崎虎舞保存会

衣装整備事業

④ 岩手県・砂子畑鹿踊り保存会

用具等整備事業

⑤ 宮城県・橋浦本地自治会

石巻北上町橋浦本地地区伝統芸能(獅子舞)保存事業

⑥ 宮城県・南蒲生太鼓

南蒲生らしさを生かした産業交流づくり

⑦ 地域伝統文化継承事業

⑧ 白河提灯祭り山車修繕事業

⑨ 岩手県・新神大黒舞

衣装等整備事業

⑩ 岩手県・平田青虎会

山車御簾作成事業

(記念物・埋蔵文化財)

① 新潟県・津南町教育委員会

津南町被災文化財修復事業(歴史民俗資料館「土器」)

② 山梨県・山梨県立考古博物館

土器修復事業

- 賛助会員
- ご寄付
- 銀行振込又は郵便振替
- YAHOO! JAPAN ネット募金
- JACCS カード入会
- 特定寄付信託
- 遺贈

◎ 東日本大震災被災文化財の救援・復旧のための募金

募金は次の方法により行っております。

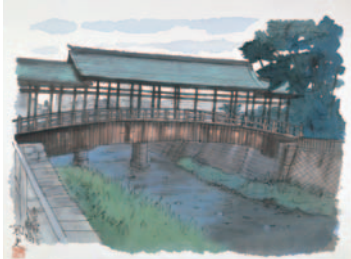
詳細は事務局までお問合せ下さい。

○ 銀行振込又は郵便振替

○ クレジットカード

今号の表紙

平山郁夫 金毘羅宮 鞘橋



金毘羅宮 鞘橋 1995年

り、橋の建造起源は不明。現在は、金毘羅宮大祭の御神輿の渡御、お田植之祭などの神事の際にのみ使われている。

編集後記

当財団の事務局がある上野公園は、今、緑一色に包まれた世界です。ご存じのように上野公園を中心とする一帯は、日本を代表する美術館、博物館をはじめ、東京藝術大学を筆頭に教育、研究機関も集中する文化ゾーンです。この「文化・芸術資源区」が二〇二〇年の東京オリンピック、パラリンピックまでどう変遷してゆくのか注視してまいりたいと思います。

日本列島のあちこちで火山活動が活発になっています。自然災害大国であるこの国に住む私たちは、「災害から身を守る」という課題に常に真摯に対応してゆくことが肝要です。その意味でも、第三回国連防災世界会議がこの春、日本で開かれたことは時機を得たものでした。

めぐる季節はこれから夏へとむかいます。今年の梅雨はどうでしょうか。その後は暑い日々が続いています。人間どもの思い通りに展開しないのが自然の流れです。皆さま、どうか健康には十分ご留意ください。

広報誌「絲綢之路」(シルクロード)

二〇一五年 夏号 通巻第七十八号

★平成二十七年六月十五日発行

★編集発行／公益財団法人文化財保護・

芸術研究助成財団 事務局◎

〒110-0007 東京都台東区上野公園十二一五十

電話 (〇三)五六八五一三一一

FAX (〇三)五六八五一三二五

URL: http://www.bunkazai.or.jp/

E-mail: jimukyoku@bunkazai.or.jp

★印刷 株式会社 東都芸印刷